

～有機と減農薬で地域に根差した農業を目指す！～ 中野 聡さん（西予市）

宇和の男米プロジェクトメンバー



中野農園代表・宇和の男米プロジェクト代表 1973年生まれ
フェイスブック <https://www.facebook.com/meguri.otokomai>

☆経営概況☆

1ターン9年目で水稲6haを栽培。一部で有機JASを取得しています（約2ha）。青年就農給付金制度の認定研修機関となり、有機栽培希望の青年農業者を受け入れています。（研修生1名）

☆ここがポイント☆

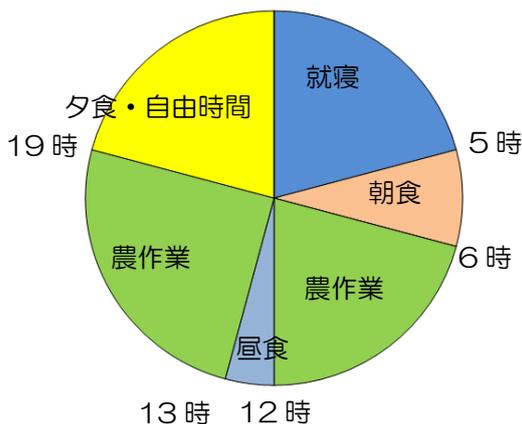
■祖父や両親の出身地で農業がしたい！

両親が西予市宇和町の田之筋地区出身で、祖父が残した田があったので、有機のお米づくりをするために脱サラして就農しました。農業をすることは地域で生活し、地域の方々と一緒に生産環境を守るためにも大切です。田舎暮らしの豊かさや大切さを知ってほしいと思っています。

■有機JASと減農薬の組み合わせで持続的な農業に取り組む！

ここに来る前は、自然農法国際研究開発センターというところで自然農法に関係する仕事をしていたので、有機農業に取り組む素地はあったと思います。草取り作業など、有機であるがためのしんどさもありますが、「育てる」「収穫する」「食べる」といういろいろな喜びを得られます。農業を通じて持続的な社会づくりにも貢献できればと思っています。

【一日のライフスタイル（一例）】



【普段の生活について】

「お米の専業農家さんは秋～冬は何しているの？」ってよく聞かれます。実際にお米づくりに携わってみると、田んぼに稲が植わっている期間（約4ヶ月）以外に田んぼの準備に手間と時間がかかることが分かります。土づくりのために堆肥を散布したり、水路や石垣、畦畔の整備をしたりなどと農繁期にできないこともあります。

といっても曜日の感覚がなくなる農繁期に比べて1～2月はゆっくりと過ごせます。

体重が年間で最大値を記録するのもこの季節です。基本的には、陽が昇ってから沈むまでが労働時間でしょうか。

かなり健康的だと思います。



【年間のライフスタイル（一例）】

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農閑期		農繁期	超農繁期			農繁期		超農繁期		普通期	
事務仕事など		田起こし・代かき・田植・除草・草刈・水管理等						稲刈り・堆肥散布・田起こし等			

☆これからの夢や目指すもの☆

■男米プロジェクトで地域の活性化を！

地元の米専業農家4人で結成した「宇和の男米プロジェクト」では、宇和米を全国的にPRするために、みかんの絞り粕を肥料化して使用するなど、特徴あるお米づくり（ブランド化）に取り組んでおり、デザイナーの方にオリジナルのパッケージづくりを依頼しています。また、米だけでなく、野菜や畜産物、魚など、美味しい一次産品が揃う西予市のファンづくりのために、本場アメリカのBBQを田んぼの中でやりたいと思っています。将来的には、地域の有機資源の肥料化する過程で、福祉の作業所とも連携した取り組みをする計画もあります。

☆メッセージ☆

■都会で住んでいる人もルーツは農家？

元をたどれば、農家であるという人は多いのではないかと思います。是非農業体験をして、農業の大切さを知る、あるいは思い出して欲しいです。そういったことを地元の方と協力して実施していけたらと考えています。